

## 《薬局サーベイランスコメント》

### 『インフルエンザの患者発生の立ち上がりはかなり早く、11月中に全国的な流行が開始となる可能性が高い』

2016年11月8日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2016/2017 シーズン）の薬局サーベイランスコメントを開始します。薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kaniyasuikei/index.html>）からの2016年第44週（10月31日～11月6日）のインフルエンザの推定患者数は21,437であり、第33週（8月15日～21日）以降12週連続で増加が続いています。前週（第43週：10月24日～30日）の推定患者数（19,236）と較べて大きな増加ではありませんが、全国的な流行開始の基準であり「週あたり推定患者数=30,000/week」に近くなってきており、11月中に基準値を超えて流行が開始となる可能性が高いと思われます（図1）。休日明けの第45週の月曜日（11月7日）の推定患者数は5,313と今シーズンの最多を更新しています。

なお、各都道府県別の第44週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると沖縄県、福井県、栃木県、北海道、秋田県、和歌山県の順となっていて、まだ人口の密集地である大都市圏に広範囲にインフルエンザの流行が広がってきているという印象はありません。

2016年第36週から第44週までの累積の推定患者数は81,210であり、昨シーズン（2015/2016 シーズン）の同時期までの推定患者数21,609の4倍近い値となっています。年齢群別では40～49歳（14.1%）、30～39歳（12.0%）、10～14歳（11.9%）、20～29歳（11.6%）、5～9歳（10.4%）の順となっており（図2）、成人層の割合が高くなっています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（99検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が81.8%と大半を占めており、A/H1pdm 14.1%、B型4.0%の順となっています（図3）。

今シーズンのインフルエンザ患者発生の立ち上がりは例年と比べてかなり早く、全国的な流行の開始や本格的な流行への移行も早まることが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生の動向については注意が必要です。

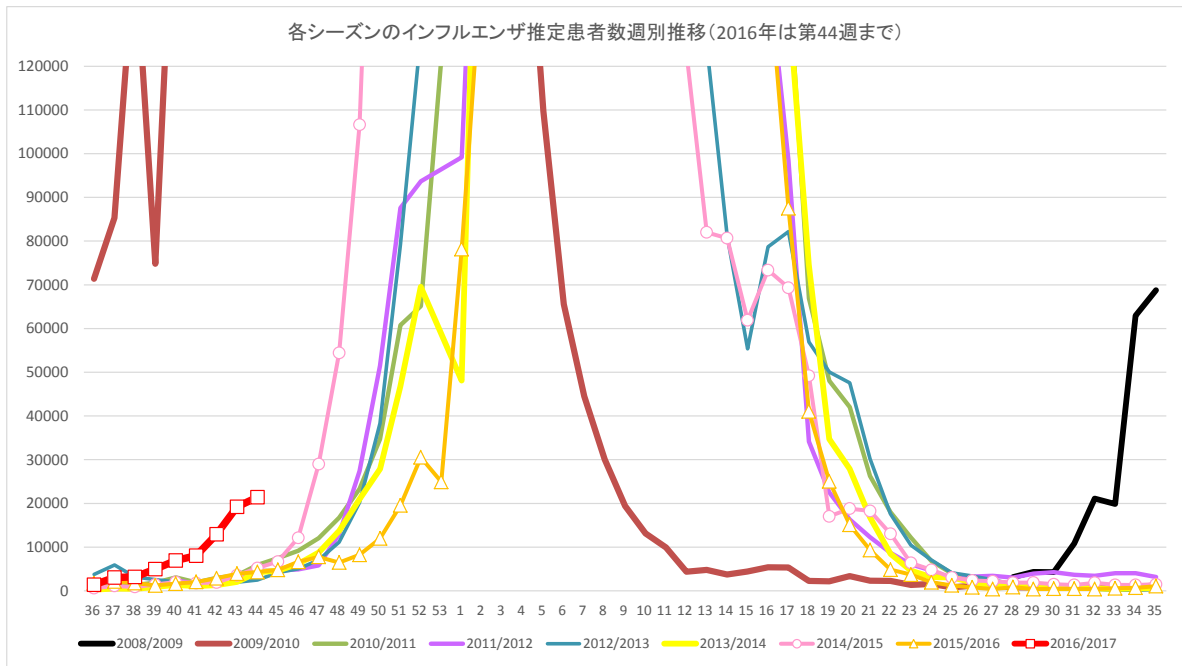


図 1. 過去 6 シーズンと今シーズン (2016/2017 シーズン) の第 36~第 16 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

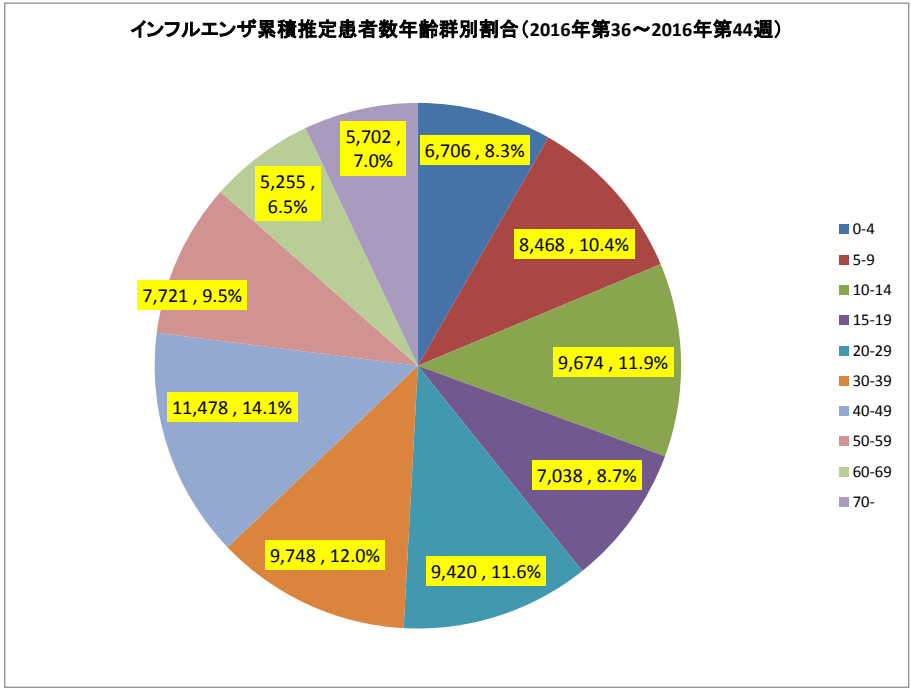


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2016 年第 36～2016 年第 44 週、累積推定患者数= 81,210)

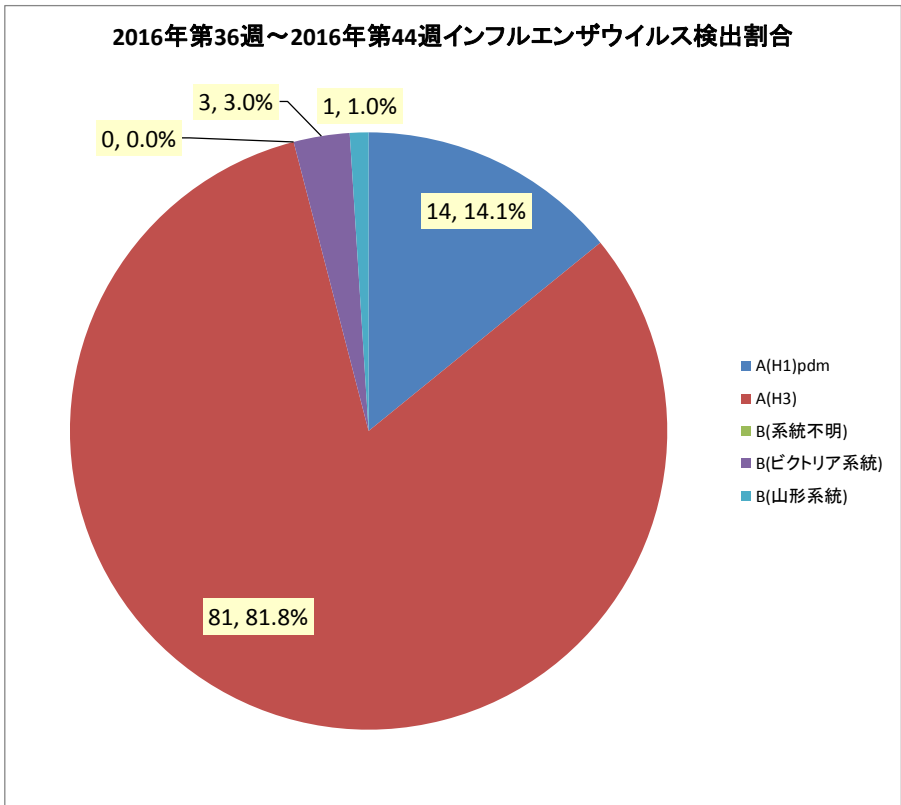


図 3. 2016 年第 36～2016 年第 44 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=99)